令和8年度　第１号　（通刊174号）

発行　令和8年10月2日
(地独)青森県産業技術センター水産総合研究所

付着生物ラーバ情報

サンカクフジツボの付着は終盤、ユウレイボヤはこれから

１　これまでのラーバ出現状況

付着生物ラーバ調査は4月から9月の間、川内の4月後半を除き、図1の地点で月2回実施しました。直近のラーバ出現数は表1、出現数の推移は図2～5のとおりです。

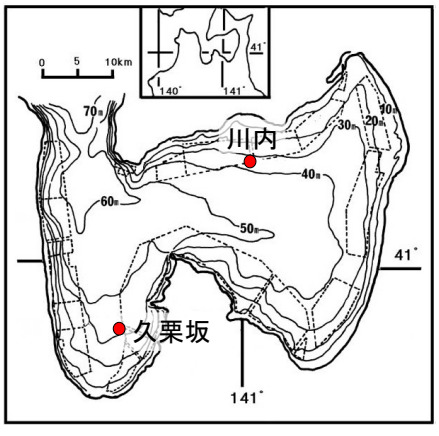


図1　付着生物ラーバの調査地点

（１）ユウレイボヤ（通称：ハナ）

久栗坂では6月前半及び後半に1.7個体/m^3、川内では6月後半から7月後半にかけて0.8～1.6個体/m^3が確認されましたが、それ以降は確認されませんでした（図2）。

（２）ムラサキイガイ（通称：カラスガイ、シュリ、マルゴ）

久栗坂では5月後半に328.0個体/m^3、川内では4月前半に358.7個体/m^3とピークが見られました（図3）。久栗坂のピーク時の個体数は平均値を上回りましたが、両地点とも昨年よりは少ない傾向です。ただし、川内では6月後半に333.8個体/m^3とピークに近い値が観察されており、これは、川内の同時期の数値としては過去最高となっています。

表1　直近のラーバの出現状況

単位：個体/m^3

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	ムラサキイガイ	キヌマトイガイ	サンカクフジツボ
久栗坂沖	9月14日	0.0	0.0	0.0	1.7
	9月25日	0.0	1.1	0.0	3.3
川内沖	9月14日	0.0	1.6	0.0	3.9
	9月25日	0.0	0.0	0.0	1.6

※実験漁場内

（３）キヌマトイガイ（通称：コメガキ）

久栗坂および川内のいずれも5月後半に、それぞれ56.7個体/m^3、236.7個体/m^3とピークが見られました（図4）。どちらの地点も7月以降はラーバが確認されていません。

（４）サンカクフジツボ（通称：アカガキ）

久栗坂はおよび川内のいずれも6月前半から出現し始め、久栗坂では令和元年からの観測史上最も早い出現となりました（図5）。久栗坂では8月前半にピーク値の8.9個体/m^3を記録しました。川内では6月後半から8月前半まで確認されませんでしたが、9月の前半にピーク値の3.9個体/m^3が観察されました。

（５）その他の付着生物

その他ホヤ類（ザラボヤ、マボヤ）のラーバは、今回の調査期間内では確認されませんでした。

２　今後の見込み

ユウレイボヤは**水温20℃以下で産卵が活発になり、発生したラーバは3日程度で付着**します。10月2日時点での湾内中層の水温は約22℃であるため、ラーバの出現は今後水温が低下してから始まると考えられます。

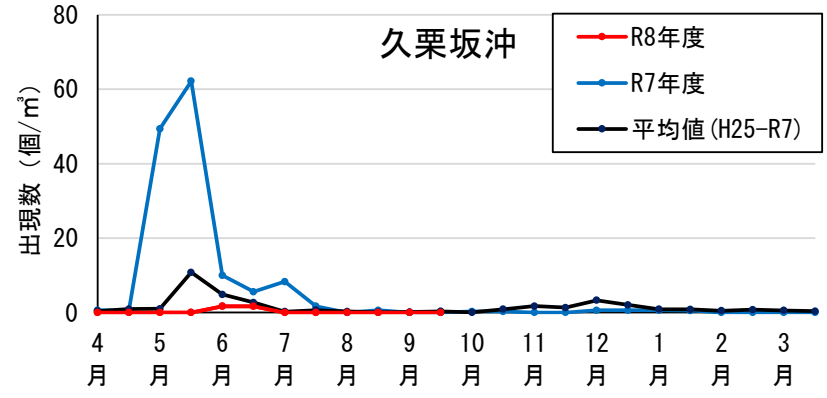
ムラサキイガイのラーバは例年、秋から冬にも出現しますが、**秋・冬生まれのラーバは養殖篭への付着が少ない**ことが分かっています。

サンカクフジツボはラーバの数が減少してきたことから、**付着は終盤に差し掛かっている**と考えられます。ただし、昨年のように**出現が確認されなくなった後、秋～冬にかけて再出現することがある**ため、動向には注意が必要です。今後の情報を参考にしてください。

発行元：地方独立行政法人
青森県産業技術センター　水産総合研究所
住　所：青森県東津軽郡平内町大字茂浦字月泊10
TEL：017-755-2155　FAX：017-755-2156

水産総合研究所ホームページURL：https://www.aomori-itc.or.jp/soshiki/sui_sougou/

海ナビ@あおもり 全モバイル端末共用QRコード



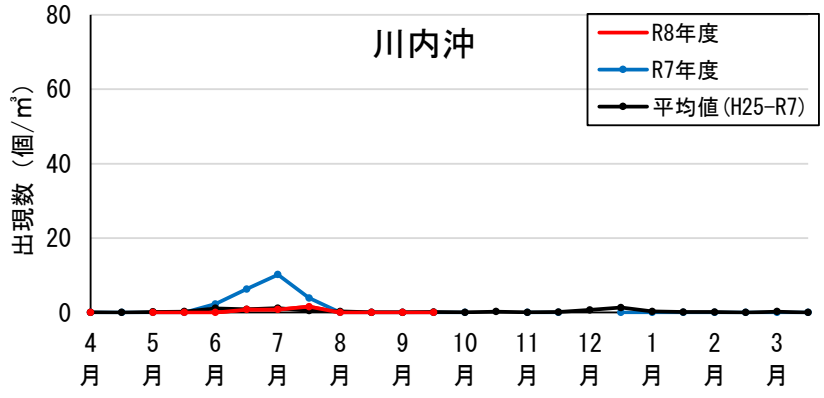
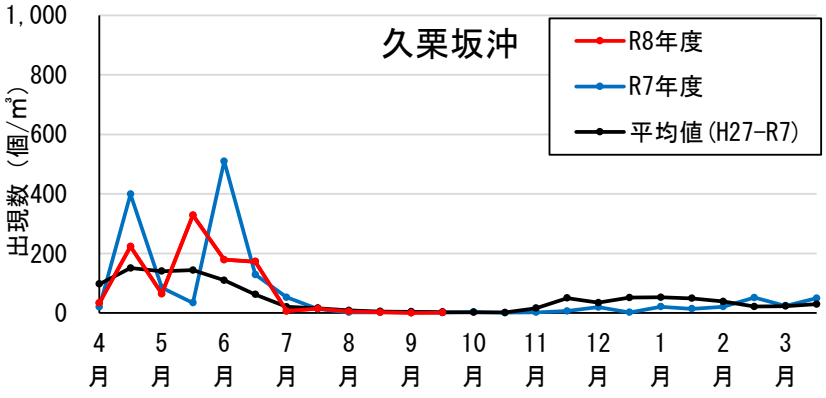


図2　ユウレイボヤラーバ出現数の推移

・H25から現在までの最大値：久栗坂 80.6個体/m³（R6_5月）、川内 10.2個体/m³（R7_7月）



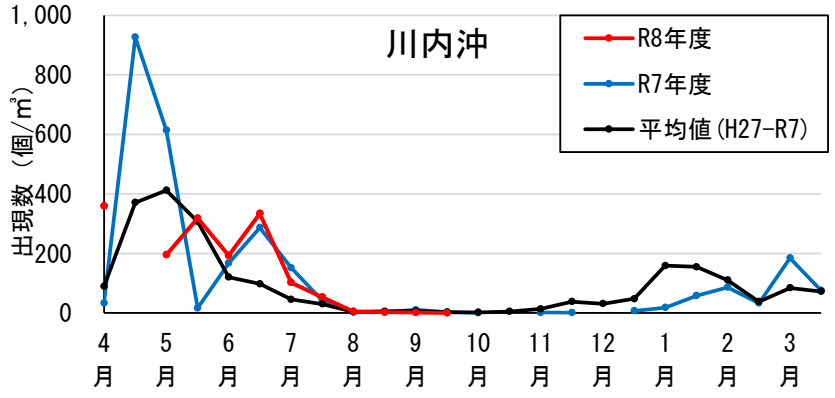
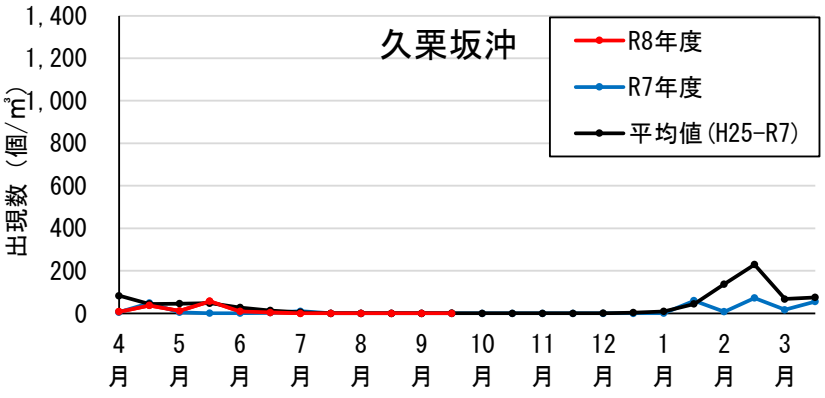


図3　ムラサキイガイラーバ出現数の推移

・H27から現在までの最大値：久栗坂 510.0個体/m³（R7_6月）、川内 1,650.0個体/m³（R3_5月）



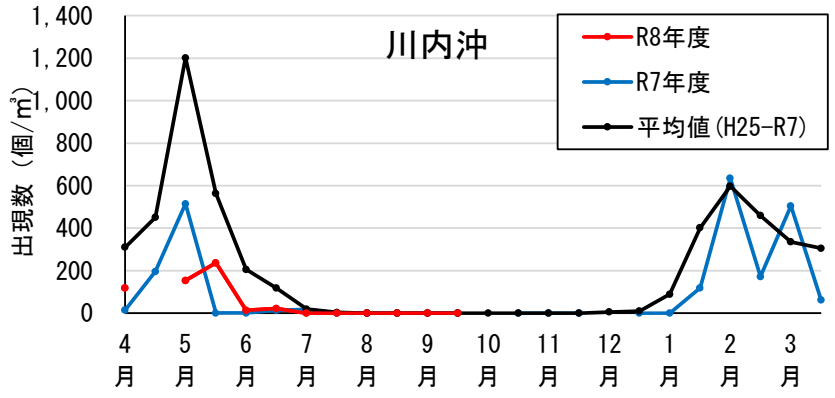
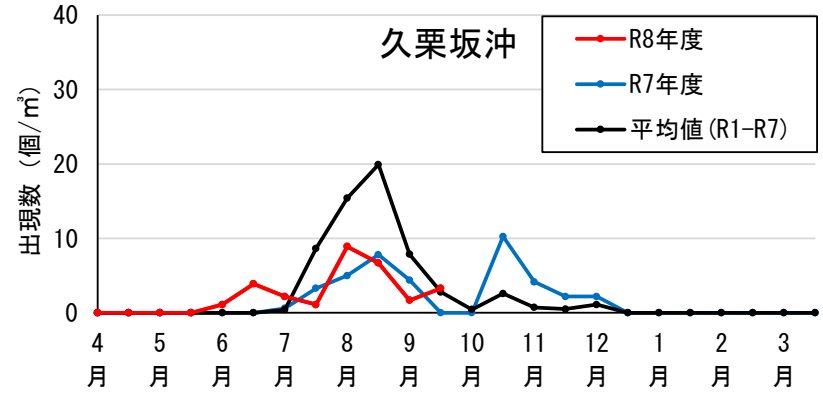


図4　キヌマトイガイラーバ出現数の推移

・H25から現在までの最大値：久栗坂 915.0個体/m³（H26_2月）、川内 4,482.8個体/m³（H27_5月）



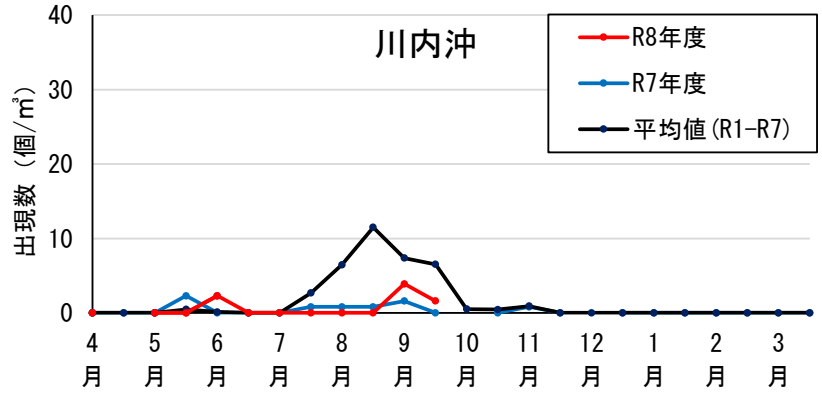


図5　サンカクフジツボラーバ出現数の推移

・R1から現在までの最大値：久栗坂 66.7個体/m³（R6_8月）、川内 45.3個体/m³（R2_8月）